

## 稲の病気

5年1組  
西田陽菜野

稲の病気  
稲の害虫とその被害

## 稲の病気

収穫量に大きな影響をもたらす、稲の病気。農家では、除草や田んぼの観察を積極的に行い、病気の予防に努めています。そこで最初に、稲の病気を発表します。

いもち病・葉鞘褐変病・紋枯れ病・褐変穂・ごま葉枯れ病・萎縮病があります。

## 稲の害虫とその被害

稲の害虫は、米の変色による品質低下や病気など大きな被害をもたらします。次に、稲の害虫とその被害を発表します。

### イネドロオウムシ

生育初期に多発した場合、被害は大きく、出穂の遅れや穂数の減少を招きます。

## 稲の害虫とその被害

### イネミズゾウムシ

成虫・幼虫ともに稲を食害します。成虫は葉を食害しますが、よほど高密度でなければ実被害にはなりません。しかし幼虫は根部を食害するため、成育に与える影響が大きくなります。

### ニカメイガ

幼虫が茎の内部を食害。出穂前に食害された茎はしんが枯れてしまい、出穂直後であれば白穂となります。登熟が進んでからは食害部に変

## 稲の害虫とその被害

色が見られ、被害の大きさによっては折れてしまふことがあります。

アカヒゲホソミドリカスミカメとはん点米成虫・幼虫ともに口針を使い、熟しはじめた玄米を吸汁するため、玄米は「はん点米」になってしまいます。

このほかにも、ヒメトビウンカ・イネアオムシ・イナゴなどがあります。

## まとめ

このように、多くの病気・害虫から、農家の人々は、田んぼの稲や米を守っているのです。

そして、農家の人々は、**よりおいしく、より安全な米**を作るために、日々、がんばっているのです。